

広報 しばた



ほ場整備事業区域で初めての田植え

平成29年度に事業が採択され進めてきた、中名生・下名生地区のほ場整備事業区域で初めての田植えが、下名生地区(工事完了箇所)で行われました。

ほ場整備事業は、水田の大区画化(1ha以上)などにより次世代への農業基盤と農村環境を引き継ぐことを目的として実施され、生産性の向上や農作業の軽減化が期待されています。

【写真: 5月19日(日)下名生字新沼田地区】

笑顔があふれ
誇りと愛着を育む
花のまち

の実現に向けて
第6次柴田町総合計画

「総合計画」は、「こんなまちにしていきたい」という柴田町の将来の姿を示し、柴田町に「住みたい人」「住み続けたい人」が増え、関わる人々が元気で笑顔になるように、町民、地域と行政が力をあわせ、新たな時代のまちづくりを進めるための計画です。

柴田町に暮らす皆さんの様々な想いを実現していくため、今後8年の新たなまちづくりの指針となる「第6次柴田町総合計画」を策定しました。

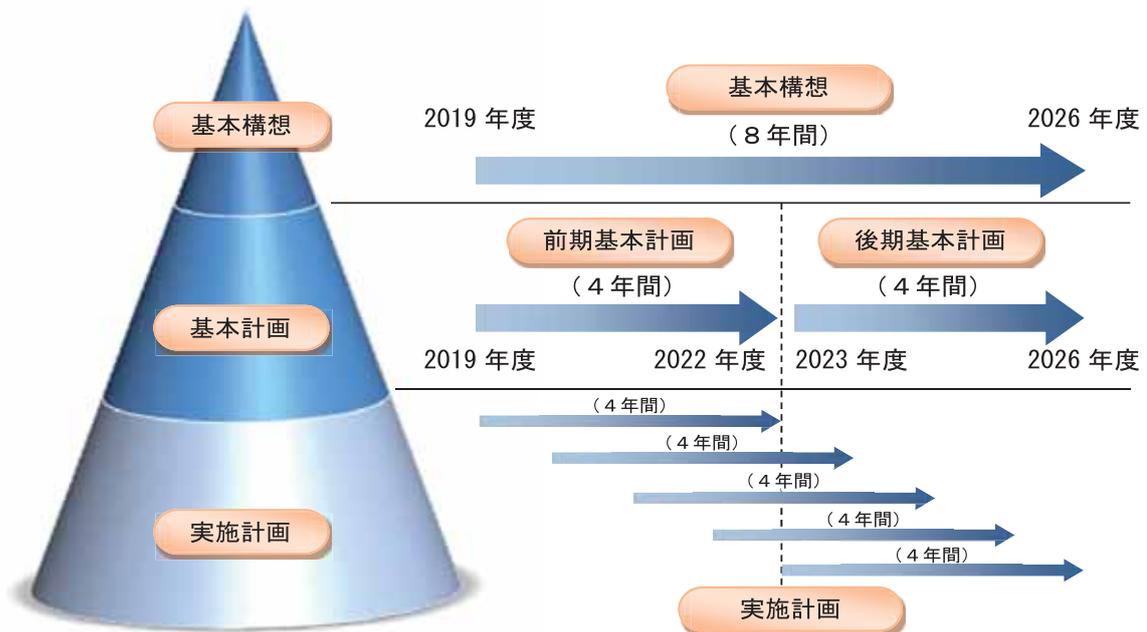
※第6次柴田町総合計画は、町ホームページに掲載しています。

問まちづくり政策課 ☎54-2111

総合計画の構成・計画期間

第6次柴田町総合計画は、次のように「①基本構想」、「②基本計画」、「③実施計画」という3つの計画からできています。

- ① **基本構想** 目指すまちづくりの「将来像」を定め、その実現のための基本的な考え方・理念を示すもので、計画期間は8年間とします。
- ② **基本計画** 基本構想で示された「将来像」を実現するための具体的な取組を体系的に示し、どの程度達成されたのかを評価するための「成果指標」を定めます。
また、社会経済情勢の変化に対応するため、計画期間は、前期と後期に区分し、それぞれ4年間とします。
- ③ **実施計画** 基本計画に示された「個別施策」の実効性を具体的に示すもので、毎年の事業実施、予算編成の指針となるもので、計画期間は4年間とし、毎年度見直しを行います。



基本理念・まちの将来像

基本理念

これまで多くの人たちが関わり、協力し合いながら進めてきたまちづくりを今後、さらに発展させるために、「柴田町住民自治によるまちづくり基本条例」に掲げる基本理念を、基本構想においてもまちづくりの理念の基本とします。

- 1 住民が安全に、安心して暮らせるまちづくり
- 2 住民の一人一人が個人として尊重され、住民の思い及び活動が活かされるまちづくり
- 3 先人が築いてきた文化、伝統等を大切に、地域の個性を生かしたまちづくり
- 4 多様な団体及び個人が交流し、又は連携し、住民がお互いに助け合う思いやりのあるまちづくり
- 5 住民であることの誇り及びまちの良さを子どもたちに引き継ぐまちづくり

まちの将来像

基本理念をもとに、住民の皆さんが誇りと愛着が持てる未来像を描き、一人一人の個性や能力を発揮し、互いに協力しながら、ともにまちづくりを進めていきたいという想いから、今後のまちのあるべき姿（将来像）を、次のとおり定めます。

笑顔があふれ 誇りと愛着を育む 花のまち

柴田町に暮らす誰もが、四季折々の景観が美しいまちで、暮らしの豊かさや安心、幸せを実感できるとともに、暮らす人、働く人、訪れる人が協力し合い、様々な分野で個性や能力を発揮しながら、一人一人が地域に愛着と誇りを持てるまちに育て、多くの人々がこれからも住み続けたい、住んでみたい、訪れてみたいまちを創造していきます。

前期基本計画における重点プロジェクトによる取組

「花のまち柴田」にふさわしい地域の活力を維持・増進し、将来にわたり、持続的な発展が可能なまちづくりに向けて、魅力的な街並みや里山、人、地域資源、暮らしに磨きをかけ、柴田町が国内外から注目を集めるための戦略的・効果的なシティプロモーションを推進します。

「花のまち柴田」のブランド化をステップアップすることで、まちづくりに共感してくれる人と人との良好な関係を構築し、まち中や里山に人を呼び込み、にぎわいや新たなビジネスを創出するとともに、地域への愛着と誇りを持ち、自ら行動する人財を育成することを目的とした5つのプロジェクトを重点プロジェクトとして推進します。

プロジェクト名	事業分野
1 子どもの未来を拓くプロジェクト	① 学力・英語力・体力の向上 ② 子どもの貧困対策
2 緑豊かで快適なまち創造プロジェクト	① コンパクトシティ構想の推進 ② グリーンインフラの整備
3 まちなかにぎわいづくりプロジェクト	① シティプロモーションの展開 ② 健康タウンの推進
4 里山の魅力ブランド化プロジェクト	① 里山ビジネスの創出 ② サイクルツーリズムの推進
5 まちづくり人財育成プロジェクト	① ふるさと納税の推進 ② ローカルベンチャーの育成

将来人口（目標人口）

柴田町の総人口は減少を続けており、住民基本台帳による平成30年（2018年）9月末時点の総人口は37,980人となっています。

こうした人口の減少は、地域経済の低迷や行財政基盤の脆弱化、地域コミュニティの崩壊など、将来の地域社会の存続に大きな影響を及ぼすものと考えられます。

本計画では、人口減少に歯止めをかける様々な施策を積極的に展開し、2026年の目標人口を「柴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推計値を使用し、36,800人とします。

区分	住民基本台帳人口（現状値）	柴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略（推計値）	
	平成30年（2018年）	2022年	2026年
総人口	37,980人	37,500人	36,833人
年少人口（14歳以下）	4,561人（12.0%）	4,511人（12.0%）	4,418人（12.0%）
生産年齢人口（15歳～64歳）	22,489人（59.2%）	21,493人（57.3%）	20,767人（56.4%）
老年人口（65歳以上）	10,930人（28.8%）	11,496人（30.7%）	11,648人（31.6%）

注）平成30年（2018年）は住民基本台帳による実績値（9月末）、2022年・2026年は、柴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略による推計値（区間按分値）

将来像実現のための基本目標

基本目標 1 快適な公共空間の整備 四季折々の景観が美しい心いやされるまち

柴田町の未来の都市像をコンパクトプラスネットワーク型とし、安全で快適に暮らすことのできる都市基盤や生活基盤、グリーンインフラとして魅力あふれる都市空間を形成することにより、歩くことが楽しい心いやされるまちづくりに取り組みます。

また、将来にわたって美しい景観が損なわれることのないよう、自然環境や農村、里山の風景、生態系を守り、環境への負担の少ないまちづくりを目指します。



基本目標 2 教育・文化・交流都市の創造 一人一人の夢や希望を拓く創造性豊かなまち

子どもたちが安心して快適な学習環境の中で学ぶ力がつけられるよう、学校施設の長寿命化、学力・英語力・体力の向上、学校と地域の協働教育によって、子どもの持つ可能性を引き出すよう努めます。

また、国内外の多くの人々と交流を深めることで、多様な生活文化の創造や、まち中でのにぎわいづくりにつなげます。



基本目標 3 子育てにやさしい安全で安心なまちの構築 誰もが安心して暮らせる住みよいまち

子育て環境を整え、多くの若い子育て世代や子どもたちを優しく支える安全で安心な地域社会の実現を目指します。

また、地域包括ケアシステムの構築、交通弱者や買物難民のための足の確保に努めます。

さらに、多発する地震、水害、土砂災害に対応するために、住民との協働による地域の安全力の向上を図ります。



基本目標 4 地方創生による稼ぐ力の醸成 「花のまち柴田」を通じたにぎわいのあるまち

「花のまち柴田」のブランド化や「フットパス構想」によって磨き上げてきた町の魅力や誇りを国内外にアピールするシティプロモーション、インバウンドやフラワーツーリズム、スポーツツーリズムを盛んにし、にぎわいのあるまちづくりを目指します。

また、里山の魅力と農村レストラン、グラマラス・キャンピング等を組み合わせることで、地域の自立と稼ぐ力の醸成、新しい人の流れをつくっていきます。



基本目標 5 参加と協働による住民自治の実践 みんなが主体的に活動する協働のまち

住民や、まちづくりを支援するサポーター、教育・研究機関等と連携し、主体的に活動する協働のまちづくりを目指します。

さらに、柴田町や地域の人たちと関わりを持つ、いわゆるつながり人口を増やすために、移住後の生活をサポートする相談体制を整備します。

また、各自治体間での広域連携の強化、財政負担の軽減や平準化など、将来も持続可能な行財政を可能とする先進的な自治体運営に努めます。



計画の施策体系

将来像「笑顔があふれ 誇りと愛着を育む 花のまち」に向けて、この計画の体系を次のとおり構成し、総合的、計画的な施策展開を図ります。前期基本計画では、次のように5つの基本目標と26の施策で構成されています。



地域に広がる
交流の輪

認知症カフェ
(オレンジカフェ)



問 福祉課 ☎55-2159



認知症でも
安心して暮らせる
地域に

超高齢社会にあって、認知症の人が今後も増加することが見込まれています。住み慣れた地域の中で、少しでも長く安心して生活できるように取り組みの一つとして、認知症カフェがあります。認知症カフェは、認知症の人やその家族が、地域の人とつながり、お互いを理解し合う場所です。以前は認知症と診断されても、自分や家族だけで抱え込み、症状が悪化してし

まうケースがありました。認知症カフェには、その孤立を解消する役割があります。また、地域の人が認知症のことを理解し、受け入れることを促進するためのアプローチの場でもあります。認知症になっても安心して暮らせる環境をそのカフェの中でつくり出し、それが地域全体に広がることを目指しています。



オレンジカフェ Q & A

Q 認知症カフェはどうしてオレンジカフェと呼ばれるのですか。

A 温かさを感じさせるオレンジ色は「手助けします」という意味を持つといわれていて、認知症を支えるシンボルカラーとなっています。

Q オレンジカフェは認知症の人のためだけの場所ですか。

A 認知症の人だけではなく、子ども、若い方など誰でも訪れることができるのがオレンジカフェの特徴です。認知症について知りたい、学びたい、考えたい、相談したい、認知症になっても安心して暮らしたい、そんな環境をつくる場所です。

柴田町のオレンジカフェ

ふたば会

認知症の方とその配偶者を対象とした会で、主に柴田町地域包括支援センターで行われています。認知症であっても、「楽しみたいこと」、「チャレンジしたいこと」をサポートしています。日帰り温泉や流しそうめんなどを計画し、月1回楽しんでいます。

参加者の声

- 認知症になってから、出掛けるのがおっくうになっていた妻でしたが、ふたば会には休まず参加したいと言ってくれます。同じ仲間がいて、情報交換もできますし、また夫婦で参加できる場所ができたので、とても嬉しいです。
- 妻は55歳の時にアルツハイマー型認知症と診断されました。一人一人症状は違うと思いますが、若年性認知症と診断されて悩んでいる方がいるなら、一人でも多くの方に早い機会に参加してほしいし、力になればと思います。



移動オレンジカフェ

町内の商業施設のイートインコーナーで開催しています。買い物に来ている方も気軽に立ち寄り、おしゃべりを楽しんだり、お茶を飲んだり、認知症で困っていることを相談したりできます。



ゆう遊会

認知症対応型共同生活介護（グループホームゆう柴田）で毎月第3月曜日に開催されています。入居者と地域の方が一緒に楽しめるレクリエーションなどを行っています。



オレンジカフェを支える皆さん

チームオレンジ

認知症を正しく理解し、偏見を持たずに認知症の方やその家族を見守る応援者「認知症サポーター」の中でも、ステップアップ講座を受講し、地域の認知症の方を支えるお手伝いがしたいと立ち上がってくれた方々が柴田町認知症サポーター（チームオレンジ）です。オレンジカフェの運営や企画などをバックアップしています。

認知症地域支援推進員

認知症に関する専門の研修を受け、町の認知症に関する取り組みについて中心になって考える役割を担っています。

オレンジカフェで認知症やもの忘れなどに関する個別相談も受け付けています。柴田町地域包括支援センター、槻木地域包括支援センター、役場福祉課に配置されています。

認知症を知る講演会

8月3日(土)、槻木生涯学習センターを会場に第10回認知症を知る講演会を開催します。世界の認知症の方々と出会い、語り合った経験をお持ちの「みはるの杜診療所」(仙台市)石原哲郎院長をお招きして、「オレンジカフェから地域のつながりを考える」と題し、講演いただく予定です。





柴田町のフットパスコースを紹介する「まちを歩こう」の5回目は、槻木フットパスコースの第3弾です。今回は、四日市場槻木東、海老穴の3コースを紹介します。

昨年11月、柴田町で開催した「全国フットパスの集い」が盛況のうちに終わったのは記憶に新しいところです。このイベントがフットパスのゴールではなく、新たなスタートです。町外、県外からフットパス愛好者が訪れ、再確認された柴田町の良い所を伸ばして、さらに楽しく魅力的な柴田町とするためにフットパスを盛り上げていきましょう。

四日市場・槻木東コース

この2つのコースは槻木駅から東方面を回るルートになります。雄大な自然や広がりのある水田を眺めて歩く景観の道が中心で、カメラを片手に、晴天の日を選んで歩くといよいコースです。スタート&ゴールを槻木駅としています。槻木生涯学習センターを拠点にするのも便利です。



槻木五間堀川沿いに咲く満開のからし菜

四日市場コース
約6.4 km

槻木の町並みから古い道を歩いて四日市場の水田地



帯へと進みます。槻木五間堀川沿いの堤道では蔵王連峰へ向かって歩くことになります。特にオスメの季節は槻木五間堀川沿いにからし菜が咲き乱れる4月中

旬から5月初旬、水が張られた水田に「さかさ蔵王」が映ることがある代掻きの時期です。



槻木フラットパスコース

第3弾

問まちづくり政策課 ☎54-2111

海老穴から白山トンネルをくぐり、水田の

海老穴コース
約5km



槻木大橋と雄大な流れの阿武隈川

数々の歌に詠まれた阿武隈川の雄大な流れを眺めながら歩く堤道と水田の景観が特徴で、コース中の各所から蔵王連峰を望むことができます。槻木大橋からは、四方を山に囲まれた柴田町の盆地の地形が見て取れるのも面白いポイントです。

槻木東コース
約5.3km



道路沿いに続く海蝕崖

縁の海蝕崖の道を歩き、館前、松ヶ越の住宅地を通じて戻るシンプルなルートですが、見晴らしの良い台地区の丘陵や、入間野山城跡へ足を延ばすなど、好みに合わせたサブルートが豊富なコースです。スタート&ゴールになっている第27区集会所は普段は開放されていませんが、すぐそばに陶芸家の太田さんが営むアーツスペース「無可有の郷」があり、カフェが併設されていますので、立ち寄ってくつろぐのも楽しいのではないのでしょうか。



撮影スポット



155

柴田町長 滝口 茂

ジュンブライドとは、6月の花嫁のことで、欧米ではこの月に結婚すると幸せになれるという言い伝えがあります。

今、交際を続けて

いるカップルの皆さんが、6月のプロポーズによって結婚に至ってくればと期待をしているところです。

ところが、私の期待とは裏腹に、わが国の結婚の現状を見ても、平成30年の婚姻件数は約59万件で戦後最低の記録となっていました。なぜ、結婚する若者が少なくなっているのか、さまざまな要因があるようです。

若者から聞こえてくる声は、「良い相手に巡り合えない」とか、「恋愛より仕事が忙しい」などで、特に男性からの「現在の給料では家族を養う自信がない」との発言には、身につまされる思いをしています。結婚して新しい家庭を築くことが若者に選択されなくなっているのが、わが国の厳しい現状なのです。

若者の皆さんの結婚観に私ごとやかく意見を述べる立場にはないのですが、社会全体を維持発展させていかなければなら

ジュンブライド 6月の花嫁

ないといった使命を負っている町長からすると、将来に対し少し不安がよぎります。今後、独身者の皆さんが年老いていった場合、周りに家族や親戚もない状況となるわけですから、病气やけがをした際に、誰が面倒を見るのかといったことが、大きな社会問題となってきます。

そこで、国や、一部の自治体においては、若者の婚活や結婚を支援するため、お見合いマッチングや多人数で参加する婚活パーティなどの取り組みを始めたところも出てきました。しかし、お堅い役所が行うだけに、なかなか成果が上がっていない面もあるようです。

こうした現状から、町としては、地道ではありますが、若者が安心して結婚し、子供を生み育てられるよう、ワークライフバランスのとれた、ゆとりのある生活を支援する環境を整備することや、若者同士が出会う機会が多い活気のあるまちづくりを進め、婚活につなげてまいります。

6月21日には紫陽花まつりが始まります。色鮮やかな紫陽花の花園でのプロポーズによって、お二人のジュンブライドがかなうことを願っています。

しばた歴史探訪

第二回 船岡館跡と寛文事件（伊達騒動）

万治3年（1660）、仙台藩3代藩主伊達綱宗が、幕府からその不行跡を理由に21歳にして隠居させられると、その子わずか2歳の亀千代（綱村）が藩主とされました。その後見役として藩政の実権を握る綱宗の叔父伊達兵部宗勝は、田村右京宗良や原田甲斐とともに藩政を独占します。これに対し伊達安芸宗重は、領地の境をめぐる紛争をきっかけに、その不当性を幕府に訴え出しました。

寛文11年（1671）3月27日、大老酒井忠清邸での審問の席上、大事件が起こります。原田甲斐が、伊達安芸を斬り殺したのです。その混乱のさなか原田甲斐も古内志摩と柴田外記朝意に切られました。柴田外記も深手を負い、その夜に亡くなりました。この後、原田家は改易（取りつぶし）、甲斐の4人の息子と孫は切腹・斬首。兵部は、土佐藩にお預け、田村右京は閉門とされました。この事件は、「伽羅先代萩」など歌舞伎や講談の題材ともなり、世に広まりました。

戦後、山本周五郎は、小説「榎ノ木は残った」（昭和33年）で、原田甲斐を身を捨てて藩を救った人物として描き出しました。昭和45年、この小説を原作に、NHK大河ドラマ「榎ノ木は残った」が放映され、人気を呼びました。

問しばたの郷土館 ☎ 5510707



「榎ノ木は残った展望デッキ」にある山本周五郎の文学碑



船岡城址公園山頂にある原田甲斐と柴田外記の供養塔



健康情報クリップ

なるほど!

みんなの健康ライフ シリーズ58

健康推進課 TEL 55-2160 FAX 55-4172

第58回のテーマは、「食育」です。

毎年6月は「食育月間」、毎月19日は「食育の日」です。

「食育」は、「食」に関するさまざまな体験を通して、食事の楽しさや大切さを知り、心も体も健康に生活できる力を育むことです。毎日の食事は、私たちの心と体を元気にしてくれます。生きるうえで欠かせない「食」について見直してみましょう。

こんなことから「食育」を始めてみませんか？

- 家族や友達と一緒に食事をしよう。



- 食品表示・ラベルを見て買い物をしよう。



- 農作物を育て、収穫しよう。



- 地場産品や旬の食材を食事に取り入れよう。

春

キャベツ、
菜の花、
さわら(鱈)



夏

トマト、
きゅうり、
いわし(鰯)



秋

さつまいも、
れんこん、
さんま(秋刀魚)



冬

だいこん、
はくさい、
たら(鱈)



町の食育の取り組みを紹介します。

学校連携食育体験事業

楽しい食体験を通して、「食」への興味・関心を高め、望ましい食習慣の定着を図ることを目的に、食生活改善推進員が学校行事(学年行事、PTA行事など)や授業のお手伝い、食育ミニ講話を実施します。

内容例

- みそ汁(豚汁)の塩分測定
- 適塩みそ汁の試飲、だし汁の試飲
- 食育ミニ講話やクイズ
- 調理実習のサポート(調理の補助) など



食生活改善推進員は、「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに、自分自身の食に関する知識を高め、地域で食育の支援活動をしています。

「柴田町図書館 食育コーナー展示」のお知らせ

6月30日(日)まで、柴田町図書館との連携により食に関する本を紹介しています。

また、6月15日(土)10時30分から11時30分まで、図書館集会室1にて、図書館司書による「ブックトーク」を行います。申し込みは不要です。お気軽に親子でお越しください。

広 告

広 告

まちかど NEWS



14回目の今回は、約320人が参加しました。

第29C区町内会自主防災会防災訓練

5月12日(日)、第29C区町内会自主防災会による防災訓練が行われました。

震度7、マグニチュード9.0の大地震を想定し、避難誘導訓練が行われたほか、煙中体験、担架組み立てなどの実技訓練や炊き出し訓練が行われました。

防災防犯部長の大槻邦男さんは、「訓練の参加者は年々増えていきます。参加することが大切なので、できるだけ多くの人が参加し、防災に対する意識を高めてほしいです」と話していました。



熱心に説明を聞き、実技訓練に取り組んでいました。

ベラルーシ新体操ナショナルチーム 事前合宿に係る協力協定締結式

4月22日(月)、仙台大学で組織する東京オリ・パラ事前合宿招致推進協議会と東京都立川市が、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるベラルーシ新体操ナショナルチーム事前合宿の協力協定を締結しました。

今後は、連携してチームを応援し、オリンピック開催時には、立川市の協力を得て、応援ツアーの参加者の宿泊場所を確保する予定となっています。



協定を交わした山田白石市長、朴澤仙台大理事長、清水立川市長と滝口町長(左から)

広 告

広 告

第34回船岡地区子ども会交通安全パレード

4月21日(日)、船岡地区子ども会育成会主催の交通安全パレードが行われました。

子どもたちは、各子ども会で作成した交通安全を呼び掛ける看板などを掲げ、「交通安全、交通安全」と呼び掛けながら、船岡の町を練り歩きました。

新栄地区子供会の辻尊宏君(船岡小6年)は、「みんなが声をしっかり出して、がんばって交通安全をアピールできたのでよかったです」と話してくれました。



11地区の子ども会から、約200人が参加しました。

第12B行政区会 敬老・福寿の会

NEWS

5月12日(日)、剣水集会所で、「第12B行政区会敬老・福寿の会」が行われました。

地域の皆さんが、ご長寿をお祝いする歌や踊りなどで会場を盛り上げ、参加者の皆さんは、楽しいひとときを過ごしていました。

2回目の参加という伊藤紀久夫さん(剣崎)は、「子供会の踊りなどアトラクションを楽しみに参加しました。私の健康の秘訣は、毎朝約30分のウォーキングです」と話してくれました。



アトラクションで元気に体を動かしました。

さくらカップミニバスケットボール交流大会

5月11日(土)、12日(日)の2日間にわたり、「さくらカップミニバスケットボール交流大会」が開催されました。

さくらミニバスケットクラブ主催で今回が22回目となり、県内外から男女合わせて24チームが参加しました。

さくらミニバスケットクラブキャプテンの及川竜輝君(船岡小6年)は、「第4位でしたが、自分たちで今できることはできたので満足しています。今後は、全国大会出場を目標に練習をがんばります」と力強く話してくれました。



優勝を目指し、白熱した試合が各コートで行われました。

広 告

広 告



こうほう 文芸

短歌

残雪の蔵王背にして咲く桜
 昨日の風よ今日は雨ふり
 スロープカー長蛇の列にあきもせず
 満開のさくら心いやされ
 クラス会「御三家」「小百合」の歌謡ショー
 輝く昭和に吹っ飛んだ
 四日市場 鳥井崎七老
 和やかに老若男女集会所
 語る漫談笑いの渦へ
 船岡 伊藤タイ子

川柳

はて今日は10連休の何日め?
 桜に雪異常気象がまた一つ
 イノシシにじゃがいも食われブタを食う
 四日市場 鳥井崎七老
 船岡 小林 夢子
 西船迫 安ヶ平良三

俳句

山路ゆく吾が足元にいかり草
 鯉魚泳ぐ風と遊びて芝桜
 音もなく芽だし促す春の雨
 たかなや何に化けるかあすの朝
 借景の若葉が迫る朝かな
 萬葉の扉をあけ令和風かおる
 青空へ届けと母にカーネーション
 バージンロードめくや並木の花明り
 船岡 可沼 妙子
 安藤 節子
 下名生 笠松ふみ子
 西船迫 安ヶ平奈津枝
 中野西範子
 石垣テル子
 制野 千秋
 遊佐 徹

大小のハンバーグ焼く子供の日
 がんばれと令和元年鯉幟
 筍掘る兄在りし日の作業靴
 幾千の色の生まれし山若葉
 逝きし父のまだそこにみて山ざくら
 花は葉に樹下一枚の青き闇
 五月空防災訓練幼と老
 ケアホーム茶碗で入歯洗うてまた
 水車小屋流れる力水の音
 めてたくも代替わりゆく令和の世
 夏近し木木は若葉を鮮やかに
 自然恩恵に野山彩る
 綿も飛ぶ追いかける孫小走りに
 掴まえて見よフワリフワリを
 寡黙なる郵便屋さん来て幾久し
 のどかな時が今日も訪れ
 山家美智子
 三塚 直樹
 及川美沙子
 若月ノリ子
 大久保和子
 浪山 克彦
 深見 半翁
 下名生 笠松ふみ子
 榎木 加藤 マサ
 西船迫 舟廻めぐる
 榎木 平間 三郎
 本船迫 森田 眞六
 船岡 沢田 順子

俳句・川柳・短歌に興味があり、こうほう文芸に載せたい方は、はがきなどで6月12日(水)まで応募ください。 圃 まちづくり政策課 ☎54-2111

広 告

広 告

広 告

広 告

我が校
の
誇り



西住小学校

『自ら学び、心豊かでたくましく生きる子どもの育成』を合言葉に、豊かな自然と地域に根ざした学校づくりをしています。我が校の誇りを3つの視点から取り上げてみました。

1 自然の中でやさしく強く成長する子どもたち

開校37年目、広い校庭と花、そして緑豊かな自然に囲まれています。清流にしか住まないサンショウウオが西住に生息しています。職員室では、子どもたちが見つけたサンショウウオを大切に育てていて、子どもたちがサンショウウオの好物のワラジムシを取って来て餌やりをしています。小さな命を大切に作る温かい思いがそこにあります。西住のサンショウウオが、平成28年「しばた100選」に選定されたことを機に、児童会が中心となって学校のイメージキャラクター「サクラサンちゃん」を作成しました。



また、七ヶ宿ダムで水没した場所にあった赤松を、昭和58年の開校に合わせ植樹しました。その松が、身にまとった衣をひるがえし、天空をゆっくり昇る人の姿にも似ていることから、「天女の松」とも呼ばれ、平成8年4月、柴田町の名木・古木40選の指定を受けました。西住小学校の卒業生にとって、夢でもあり、誇りでもあります。

2 地域に根ざした学校(みんなの憩いの場として)

1年生を迎える会は、桜の開花にあわせ船岡城址公園で行っています。大運動会やお雛子の役をこなし盛り上げる夏祭りでは、地域の方々と一緒に競技したり、応援し合ったり、演奏し合ったりと協力の大切さを学んでいます。「わくわくまつり」と称して、昔の遊びや子どもたちの考えた遊びを地域の方々と互いに紹介し、一緒に遊ぶ世代間交流事業。



その他の学校行事において、地域の方々からたくさんの協力をもらい、一緒に笑い、喜び、みんなで達成感を味わい、学校と地域、そして子どもたちの絆が深くなっています。地域あつての学校。学校は地域の皆さんの憩いの場にもなっています。

3 仲良く・賢く・たくましい子どもたち 何にでもチャレンジ

業間の休み時間・昼休み・放課後になると、広い校庭で鬼ごっこやサッカー、ドッジボールで遊んだり、チャレンジパーク(山の斜面)でロープを使って山登りのチャレンジをしたり、積極的に遊び、体力をつけています。また、縦割り活動と称して、1年生から6年生までがいくつかのグループになり、一緒になって掃除をしたり、遊んだりしています。放課後学習室には、大勢の子どもたちが参加しています。自分で計画し、宿題や自主学習をしている子どもたちも増えてきました。我が校では毎週木曜日を「English Day」と決め、生活の中でたくさん英語を使っています。朝、子どもたちの方から「Good morning」と言われることが多くなってきました。そして、地域の方々も、木曜日には英語で子どもたちと会話を楽しんでいる様子が見られるようになってきました。

改めて子どもたちが何にでも挑戦しようとする精神と賢さ、たくましさを我が校の誇りと考えています。

(西住小学校長 熊谷 浩)

広報
しばた お店や会社のPRに
有料広告募集中!

「広報しばた」に掲載する広告を募集しています。お店や会社のPRなど、暮らしに役立つ広告をお待ちしています。掲載料金などの詳しい内容については、お問い合わせください。

☎まちづくり政策課 ☎54-2111

広 告

地域に根ざし、
地元に貢献する会社へ

平 幸
平間 幸哉さん (38歳)

今回は、町内で上下水道工事や水回りリフォーム工事を請け負っている平幸の間幸哉さんを紹介します。



20代中盤まで東京で服飾関係の仕事をしてきた平間さん。結婚を機に家業を継ごうと実家へ戻ったところ、叔父から「そんな甘い考えでは何をやってもらめだ」と諭され、仙台の設備関連の企業に就職をしました。その事が人生の転機となったと話します。

「前の会社では、設備工事の現場監督を任せられました。今までの仕事と圧倒的に違う事。それは責任の重さでした。大きさに言うと現場監督になったら代わりの人はいません。いわば自分との戦いです。現場が動いているうちは休むこともできない。また、現場のミスは現場監督の責任になります。その中で、仕事に対する気配り、真心、気付き、スピード感が大切であること、そして何より仕事の本質を学ばせていただきました」

今までの経験で印象に残っていることを伺うと、「地下鉄東西線六丁の目録の工事です。まさに地図に残る仕事です」

した。その工事中に問題が発生した際、周りの方々に助けていただき、解決することができました。人と人の繋がりの大切さ、人は誰かに支えられて生きていくことを実感させられました。11年間、お世話になった会社には感謝しかありません。この経験が今の私の全てです。今、世の中では働き方改革が叫ばれています。しかし私は、苦勞を経験した人には敵わないと思っています。若いうちに苦勞は買ってでもしろという格言は間違っていないと思います」と話してくれました。

最後に、「今後は曾祖父から続く家業の四代目として、以前の会社で学んだ人、社会、仕事、己に尽くす自分であり続けたい」と目標を話してくれました。休憩時間に秋田犬の愛犬「ゴン太」と、犬のフンを「運」が落ちていいると考え、拾いながら散歩するのが楽しみと話してくれた平間さん。これからも地域に根ざした企業として頑張ってください。

最後に、お世話をし、お世話になった会社には感謝しかありません。この経験が今の私の全てです。今、世の中では働き方改革が叫ばれています。しかし私は、苦勞を経験した人には敵わないと思っています。若いうちに苦勞は買ってでもしろという格言は間違っていないと思います」と話してくれました。



浄化槽の設置工事で重機の操作を行う平間さん。



平 幸
柴田町槻木上町1丁目3-24
TEL 56-1417
大正10年創業。給排水設備や漏水処理、水回りリフォーム、エアコン設置などを手掛ける。従業員5人。

人口と世帯数
(令和元5月1日現在)



37,810人
(前月比106人増)



18,884人
(前月比83人増)



18,926人
(前月比23人増)



15,855世帯
(前月比130世帯増)

※平成24年7月9日の住民基本台帳法の改正に伴い、外国人を含む人口と世帯数となります。